

観光まちづくりかわら版

富士山と湖と高原のまち—日本の湖水地方—

富士河口湖町の観光に関する興味深い情報やまちづくり情報などを紹介するかわら版です。

『観光立町推進基本計画』の後期計画が策定されました

町では、観光に関する施策を計画的に推進するため、平成21年3月に『富士河口湖町観光立町推進基本計画』を策定し、計画に基づいて様々な取組みを進めてきましたが、平成26年4月で計画策定から5年が経過しました。

この5年間で、東日本大震災の発生、富士山の世界文化遺産登録、東南アジアをはじめとした海外からのお客様の急増、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定、スマートフォンやSNS(*)の普及拡大など、様々な状況の変化が起きていることから、これらの社会動向の変化や5年間に実施された施策を分析し、必要な施策の修正を行った後期基本計画(計画対象期間:平成26年度~30年度)を平成26年3月に策定しました。

後期基本計画では、27の施策分野の中でも重要性の高い15の施策を「主導施策」として位置づけ、さらに最重要な課題への対応として5つの「戦略プロジェクト」を位置づけました。5つの戦略プロジェクトは右のとおりです。

- 1.「食」「宿」の富士河口湖町スタンダードづくりプロジェクト
- 2.富士山を活かしたつくすプロジェクト
- 3.外国人に喜ばれる観光地「No.1」プロジェクト
- 4.また行きたくなる ~ 観光情報発信力強化プロジェクト
- 5.官から民へ ~ 持続・発展型の組織づくりプロジェクト



町では、今年度から平成30年度までの5年間の観光施策をこの計画に沿って立案、実施していきますが、この計画を実行していくためには、地域住民、観光事業者、関連団体の方々の主体的な取組みが必要となりますので、皆様の積極的な観光まちづくりへの参画をお願いいたします。

基本計画は観光課か町の生涯学習館(図書館)で閲覧できるほか、町ホームページでも閲覧、ダウンロードができますので、ぜひご覧ください。

※SNS:ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称。インターネット上での日記やメッセージなどを通じて友人や知人・共通の趣味を持つ人達との交流を目的としたサービスの総称

第7回富士山・河口湖映画祭が行われました

大雪の影響を受け開催延期となっていた第7回富士山・河口湖映画祭が5月10日・11日の2日間、勝山ふれあいセンターで行われました。この映画祭の最大の特徴は、「富士河口湖町を舞台としたオリジナルのシナリオ」を募集するシナリオ・コンクールを行い、グランプリに選ばれた作品を実際に映画化して翌年の映画祭で上映するという点にあります。

5月10日には、昨年の第6回シナリオ・コンクールでグランプリを受賞した西史夏さん(兵庫県伊丹市)の脚本を映画化した『ブーケ ~a bouquet~』が初上映され、西さんをはじめ、監督を務めた五藤利弘さん、主演した円城寺あやさん、右手愛美さんなどが舞台あいさつを行いました。映画のDVDは生涯学習館で貸出、閲覧が可能ですので、ぜひご覧ください。

また、7回目となったシナリオ・コンクールは、全国から303点という過去最多のシナリオ応募の中から、審査委員長である山本むつみさん(大河ドラマ『八重の桜』や連続テレビ小説『ゲゲゲの女房』などの脚本家)が8つの入賞作品を選考し、同じく5月10日に表彰式が行われました。そして栄えあるグランプリには、なんと富士河口湖町在住の外川桂さんの作品『再生 ~ 霊峰富士に抱かれて ~』が輝きました。町民がグランプリを受賞するのは初めての快挙となります。映画撮影は夏から秋にかけて行われ、来年2月21日・22日の第8回映画祭で初上映される予定となっています。



第7回シナリオ・コンクールで受賞された方々(前列)